

## 0.1 堰 (H-Q) モジュール

以下に、モジュールの仕様概要と操作手順を示す。

表.1 モジュールの仕様概要

No	項目	内容
1	DLL 名	McWeirHQ. DLL
2	概要	H-Q テーブルより流量を算出する。
3	送受信のパターン	受信 ①水位 伝送仕様：1次元時系列 セル内変数：WATER_LEVEL (m)
		送信 ①流量 伝送仕様：1次元時系列 セル内変数：QUANTITY_OF_WATER_FLOW (m <sup>3</sup> /s)
4	接続方法	受信 ・要素接続は、1次元時系列で行い、水位を入力する。 ・上記以外の接続は、できません。
		送信 ・要素接続は、1次元時系列で行い、流量が出力される。 ・上記以外の接続は、できません。
5	基礎式	なし
6	備考	
7	サンプルプロジェクト	・堰 (H-Q) モジュール.prjdb

(1) 流量出力パターンの場合

1) モデル接続

モデルの接続方法を、以下に示す。

①要素の配置を行い、下図に示すモジュールを設定する。

カテゴリーが入力要素の観測水位入力モジュールを設定

カテゴリーが演算要素の堰 (H-Q) モジュールを設定

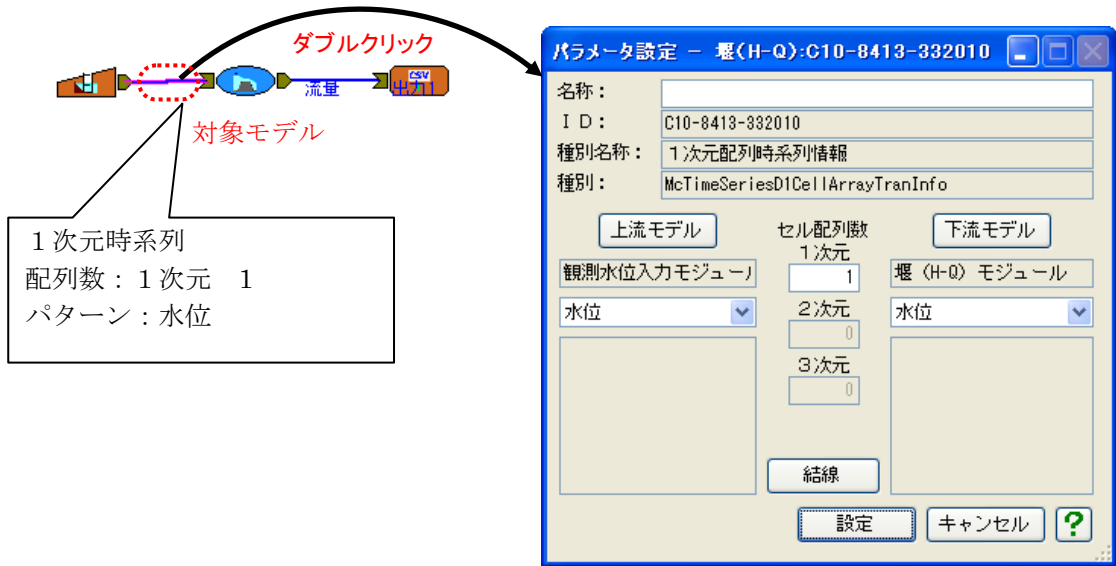
カテゴリーが出力要素の CSV 時系列ファイル出力モデルを設定

対象モデル

図.1 モデル接続

②要素接続は、以下の通り設定する。

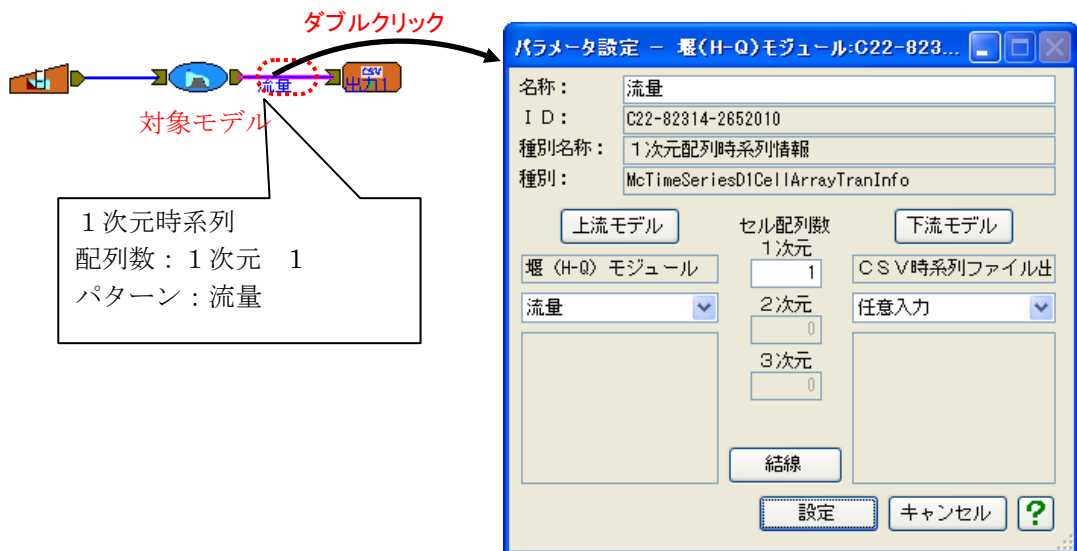
【受信側】



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う

図.2 要素接続（受信側）

【送信側】



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う

図.3 要素接続（送信側）

2) パラメータ設定画面

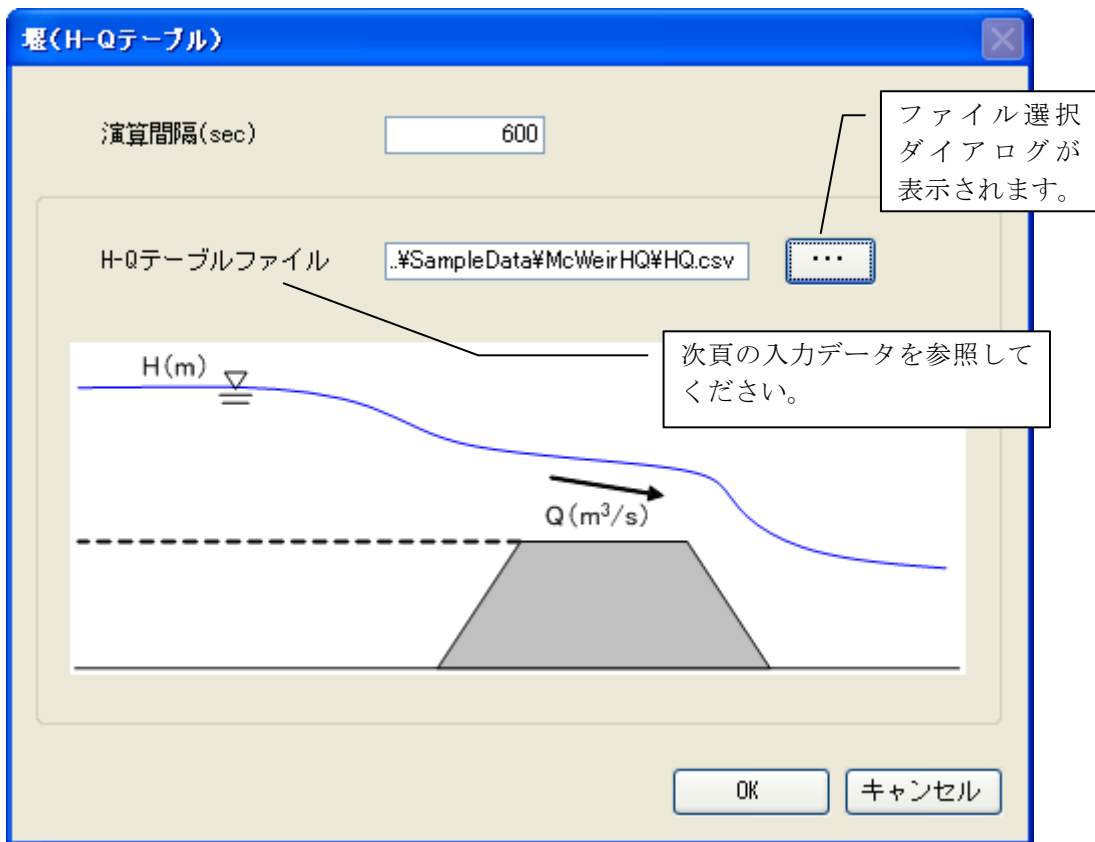


図.4 個別 GUI レイアウト図 (堰 (H-Q) モジュール)

### 3) 入力データ

1次元時系列の水位データを入力する。

時間	0
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value="水位"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
:	:
:	:

<HQ テーブルファイルの例>

H-Q 組数,6	H,	Q
	0.1,	0.1
	3,	12.6
	5,	15.8
	9,	19.4
	11,	21.2
	100,	100

ヘッダーにデータ数を指定する

図.5 入力データフォーマット

### 4) 出力データ

1次元時系列の流量データが出力される。

時間	0
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value="流量"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
:	:
:	:

図.6 伝送データイメージ